**競技上の注意事項**

**１．競技規則**

（１）本大会は、令和元年度（財）日本バレーボール協会の定める６人制競技規則による。

ただし、別に定める小学生バレーボール・フリーポジション制及びローカルルールを用いる。

○コートの広さは、８ｍ×１６ｍ、ネットの高さは２ｍとする。

（２）混合の部

①ｺｰﾄ内には、男子及び女子が常に1人以上であれば、男女混合ﾁｰﾑとして編成することができる。（男女比は問わない）

②競技者交代は、（２）－①に示した割合を守れば、男女に関係なく競技者交代をする事が出来る。

**２．競技方法**

　（１）予選リーグ戦の後、決勝トーナメント戦を行う。

　（２）得点方法、２１点のラリーポイント制を採用し、２セット先取とする。ジュースの際は２点差がつくまでとする。第３セットに関しては、１５点制で行う。

　（３）各セットリードしているチームが１１点に達した時点で副審の吹笛により３０秒間の水分補給（ﾃｸﾆｶﾙﾀｲﾑｱｳﾄ）が適用される。３セット目は８点時（チェンジコート後）とする。

　（４）試合は追い込み形式で行い、試合終了後５分後に試合が開始できるように準備し、３分間の打ち合いの後、試合を開始する。連続する場合は、１５分の休憩をとる。

　（５）男子・女子・男女混合の部の決勝戦のみ公式プロトコールを採用する。

　（６）有効に登録された者以外のベンチ入り及び公式練習参加は認められない。

**３．服装**

　　（１）監督・コーチ・マネージャーの服装は、襟付きシャツ・トレーニングパンツを着用し、必ずシューズを履くこと。短パン・Ｔシャツは不可とする。ただし、児童がマネージャーの場合は認める。

（２）監督・コーチ・マネージャー章は、必ず左胸部に着用すること。

**４．チームスタッフ及び選手の変更**

　参加申込書に記載されたチームスタッフ及び選手の変更（背番号の変更・誤字の訂正を含む）に関しては、島尻小連ホームページに掲載されたエントリー変更届けにその旨を記入し、大会初日監督会終了時までに、各会場（競技委員）に提出し、承認を得ること。それ以降は認めない。

**５．大会使用球**

予選・決勝トーナメントともに

**男子＝モルテン球**、**女子＝ミカサ球、男女混合＝モルテン球**を使用する。

**６．予選グループ戦における順位の決定方法**

　（１）勝ち数

　（２）同勝敗の場合

　　〇四角リーグの対角チームが同勝敗の場合は、１セットマッチ（２１点）の決定戦を行う。

　　〇隣チーム同士が同勝敗の場合は、直接対決の勝敗を優先し順位を決定する。

　　〇三角、四角リーグにて全て同勝敗で並んだ場合、得失セット率、ポイント率により順位を決定する。

　　　・得失セット率

　　　　＝得たセットの総数　÷　失ったセットの総務（率が大きい方が勝ち）

　　　・ポイント率

　　　　＝総得点数　÷　総失点数（率が大きい方が勝ち）

**７．各試合会場におけるコートでの練習**

　（１）第１試合開始前に各チーム５分間のチーム練習を行う。

　（２）各会場とも、コートの準備が終了し、競技委員からのアナウンスがあるまでアリーナに入ることはできない。

　（３）第１試合終了後は、試合間が５分間のため、コート練習はなし。（３分間の打ち合いの後試合を開始）。ただし、連続試合の場合は、パスのみの練習を可とし、ノック玉入れも不可とする。（公式プロトコールの場合は、その限りではない。）

　（４）建物内のアリーナ以外でのボールを使っての練習は絶対に行わないこと。（玄関やピロティー、屋外でのボールの使用は禁止）また、屋外でのアップを行う場合は、上・下履の区別をすること。

**８．シードについて**

男子２チーム、女子４チーム（第３・４シードについては抽選）をシードする。

〇【男子】第1　与那原ファイヤー、　第2　豊見城団地クラブチャレンジャー

　〇【女子】第1　豊見城団地クラブ、第2 長嶺クラブ、第3・4　玉城クラブ、与那原ヴィクトリー

**９．抽選方法**

　（１）シードチームの抽選

　（２）会場校チーム抽選

　（３）その後の抽選は、申込み順にて行う。

**10.今大会は、第３９回全日本バレーボール小学生沖縄県大会への**

**予選大会とする。（県大会出場チーム数により、男子・女子とも順位決定戦を行う。）**

**11．その他**

　（１）ベンチには、競技上必要な飲料水・救急用具以外の物品を持ち込まないこと。また飲料水は、床にこぼさないよう注意すること。

　（２）応援団の応援旗及び団旗は、試合のあるチームのみが掲示し、その際プレーに支障のないようにすること。

　（３）応援団の応援用具は、大きな音の鳴る鳴り物（太鼓・ベル・ペットボトル等）は禁止とし、審判のホイッスルの邪魔にならないよう配慮すること。

　（４）審判やラインジャッジへの批判・暴言は厳に慎むこと。

　（５）選手への体罰・暴言・威嚇等の行動は、絶対禁止とする。

　　※上記の事項を、各チームの指導者は十分考慮すると同時に、各チームの応援団（保護者会）へも指導を徹底すること。